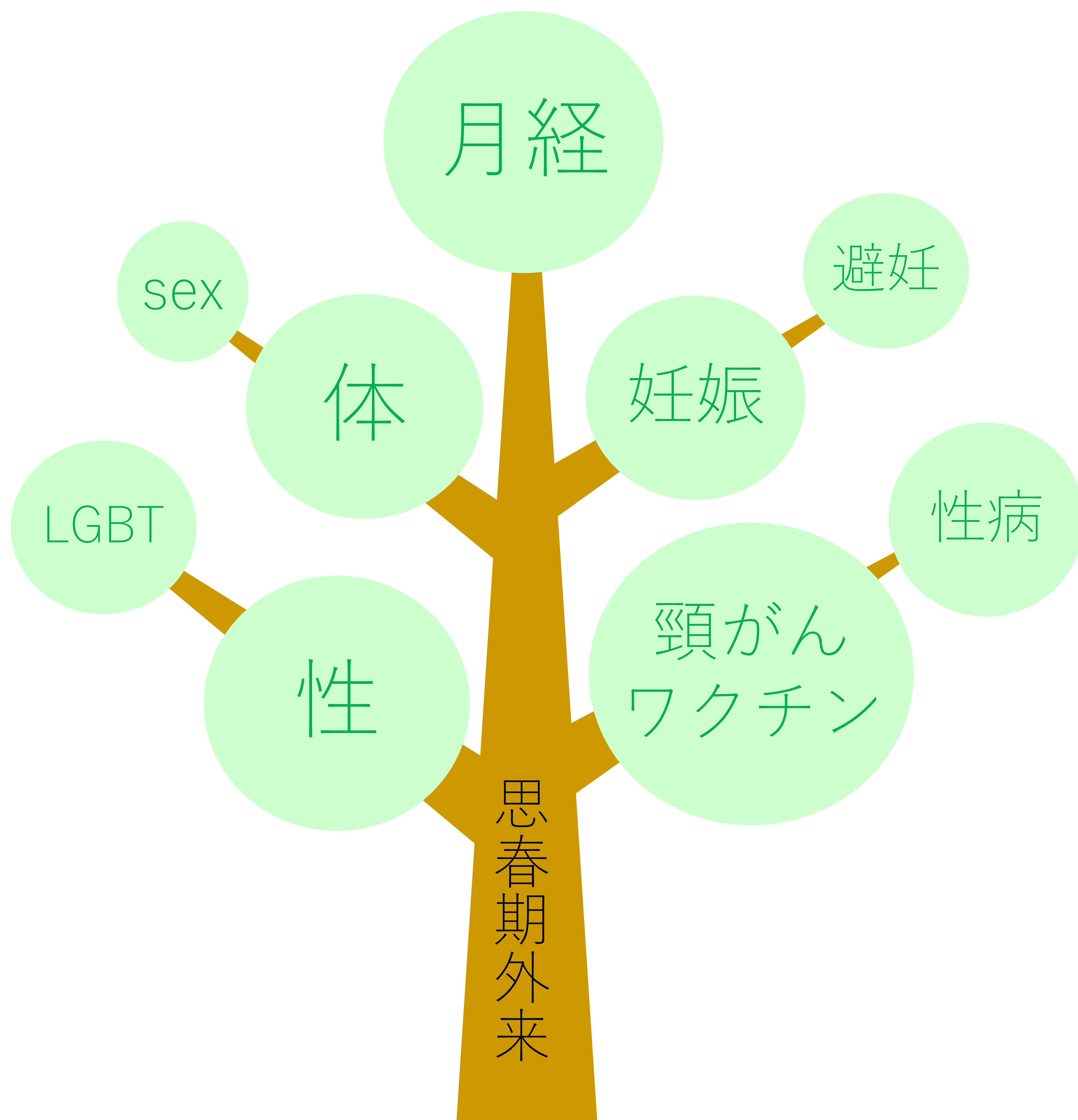




思春期外来

遠州病院産婦人科では、2021年10月に思春期外来を開設しました。
小学生・中学生・高校生を対象に**毎週月曜午後・第1土曜日午前**に診療を行っています。
思春期の子に限らず、産婦人科受診はあらゆる年齢で抵抗があると思いますが、気軽にご相談していただけるように配慮し診察を行っております。
また、2022年4月より積極的勧奨が再開されたHPVワクチン接種も取り扱っています。
この機会にぜひ接種をご検討ください。





月経の異常

①無月経

初経の年齢は個人差がありますが、中学3年生になっても月経が来ない場合、背景に器質的な異常がある可能性があります。また、初潮を迎えても月経が3か月以上停止している場合、将来の骨粗鬆症や不妊症につながる可能性があります。

②月経の異常

思春期はダイエットを意識したり、部活動による急激な体重減少⇒月経の異常をきたすことがあります。月経周期が3週間未満もしくは2か月以上あく、月経量が極端に少ないもしくは血の塊が大量に出る、性器出血が10日以上持続する、場合は異常です。

③月経困難症

月経困難症は月経に随伴して起こる下腹部痛・腰痛・腹部膨満感・嘔気・頭痛・疲労感・脱力感・食欲不振・イライラ・下痢・抑うつなどの症状をいいます。月経困難症は日本では約900万人の患者さんがいると推計されていますが、治療を受けているのは約6%です。月経痛は病気ではない、我慢するのが当たり前、痛いときには市販の鎮痛剤を使えばいい、などの意識が女性たちの中にあると推測されます。強い月経痛は子宮内膜症のおそれもあります。

④月経前症候群(PMS)

月経がはじまる数日前から気分の落ち込み、イライラ、だるさ、めまい、腹痛や腰痛、頭痛などが出現し、月経開始とともに軽快または消失します。精神症状が強い場合は月経前不快気分障害(PMDD)の場合もあります。日本では月経のある女性の約70-80%が月経前に何らかの症状があるといわれていますが、生活に困難を感じるほど強いPMSは5.4%であり、思春期女性ではPMSがより多いとの報告があります。

①～④について、相談や治療を希望される場合は、当院産婦人科へお問い合わせください。
(午後2時～午後4時の間に053-453-1111(代)へお問い合わせください。)



子宮頸がんワクチン

- ・子宮頸がんは95%以上、HPV(ヒトパピローマウイルス)感染が原因で発症します。
- ・HPVは性交経験のある人の80%が一生涯に一度は感染するといわれているウイルスです。
- ・HPVは150以上のタイプがありますが、子宮頸がんの原因となる可能性がある高リスク型HPV(14タイプ)と、尖圭コンジローマの原因となる可能性がある低リスク型HPV(2タイプ)があります。
- ・HPVは子宮頸がん以外に膣がん、肛門がん、外陰がん、陰茎がん、咽頭がんなどの原因にもなります。
- ・HPVは性交渉により感染しますが、通常は感染しても90%以上は自然に排除されます。感染が持続すると、子宮頸部異形成⇒子宮頸がんを発症します。感染からがんに至るまで数年～数十年かかります。
- ・HPVワクチン(シルガード9[®])は子宮頸がんに対して90%以上の予防効果があり、尖圭コンジローマも予防します。9価ワクチン(シルガード9[®])のみです。
- ・小学6年生～高校1年生の女子は公費により無料で接種できます。
- ・HPVワクチンは2013年4月に定期接種化されましたが、接種後の多様な症状が報告され、2013年6月に厚生労働省が積極的勧奨を中止しました。それ以降、HPVワクチン接種率は1%を切る状態が持続していました。
- ・2022年4月から積極的勧奨が再開されました。浜松市では定期接種対象者にリーフレットを送付するなどの取り組みを行っており、接種率は徐々に回復しています。
- ・HPVワクチンの安全性を巡っては、国内外で行われた調査で安全性が確認されています。WHOもHPVワクチンは極めて安全であると発表しています。